

## 鷺見誠一教授略歴

- 一九三九年 二月十五日 東京都に出生
- 一九六二年 三月 慶應義塾大学法学部政治学科卒業
- 一九六四年 三月 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程修了
- 四月 慶應義塾大学法学部助手
- 一九六七年 三月 慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
- 四月 慶應義塾大学法学部専任講師
- 一九七〇年 四月 慶應義塾大学法学部助教
- 一九七一年 七月 米国コーネル大学歴史学部訪問研究員（一九七三年七月まで）
- 一九七八年 四月 慶應義塾大学法学部教授（現在にいたる）
- 一九八七年 九月 英国ケンブリッジ大学ゴンヴィル・アンド・キーズ・コレッジ訪問研究員（一九八八年八月まで）

## 鷺見誠一教授主要著作目録

### 一、著書（編著、共著書を含む）

『政治思想史の基礎知識』（有賀弘氏、内山秀夫氏、田中治男氏、藤原保信氏との共編）

『西洋政治思想史』（佐々木毅氏、杉田敦氏との共著）

『ヨーロッパ文化の原型——政治思想の視点より』

『近代国家の再検討』（蔭山宏氏との共編）

『現代意識の諸相 学問・芸術からの照射——慶應義塾大学法学部政治学科開設百年記念講座』

『転換期の政治思想——20世紀からの問い』

有斐閣 一九七七年

北樹出版 一九九五年

南窓社 一九九六年

慶應義塾大学出版会 一九九八年

慶應義塾大学出版会 一九九九年

創文社 二〇〇二年

### 二、翻訳

ジョセフ・ストレイヤー『近代国家の起源』

マルセル・パコー『テオクラシー』（坂口昂吉氏との共訳）

ブライアン・ティアニー『立憲思想 起源と展開 1150～1650』

岩波新書 一九七五年

創文社 一九八五年

慶應通信 一九八六年

### 三、論文

「トマスによる『政治の領域』の理論的確立——マルシリウス研究の準備段階として」

『法学研究』第四〇巻一号 一九六七年

「権力に抗して 教育者としての活動——不敬事件を中心に」(関根正雄氏編『内村鑑三』所収)

清水書院 一九六七年

「マルシリウス・パドウアの国家観」

『法学研究』第四二巻四号 一九六九年

「マルシリウス・パドウアにおけるアリストテレス受容の問題——その政治学的考察」

『法学研究』第四三巻一号 一九七〇年

「アウグスチヌス政治思想におけるリアリズム的側面——アウグスチヌス政治思想への手がかりとして」

『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第一号 一九七〇年

「内村鑑三不敬事件——その思想史的考察」

『法学研究』第四三巻一〇号 一九七〇年

「マルシリウス・パドウアの実定法理念」

『法学研究』第四八巻九号 一九七五年

「マルシリウス・パドウアの自然法思想」

『法学研究』第五〇巻八号 一九七七年

「マルシリウス・パドウアの神法理念」

『法学研究』第五一卷八号 一九七八年

「支配原理としての中世ローマ教皇制——胚種と着生」

『法学研究』第六二巻一〇号 一九八九年

「パドヴァのマルシリウスの社会思想」(上智大学中世思想研究所編『中世の社会思想』所収)

創文社 一九九六年

「日本における政治思想・政治哲学の意義と課題」

『法学研究』第七四巻七号 二〇〇一年

#### 四、書評

渡邊守道著『ニコラウス・クザーヌスの政治思想——〈普遍的的一致〉に関連して』

『法学研究』第四〇巻六号 一九六七年

有賀弘著『宗教改革とドイツ政治思想』

『法学研究』第四一卷二号 一九六八年

浜田幸策著『都市貴族の研究——メディチ家の研究』

『法学研究』第四三巻二号 一九七〇年

内田芳明著『ウェーバー社会科学の基礎研究』

『法学研究』第四三巻一二号 一九七〇年

ウォルター・アルマン著、鈴木利章訳『中世における個人と社会』(柴田平三郎氏との共同執筆)

『法学研究』第四四卷二号 一九七一年

ジョセフ・ストウレイヤー著『近代国家の中世的起源について』

『法学研究』第四七卷三号 一九七四年

エーリッヒ・モイテン著、酒井修訳『ニコラウス・クザーヌス(1401-1463)——その生涯の素描』

『法学研究』第四七卷六号 一九七四年

ジョン・モラル著、柴田平三郎訳『中世の政治思想』

『法学研究』第四八卷一〇号 一九七五年

ジャック・グデ著、小林公訳『救済の帝国——ダンテと政治』

『法学研究』第五〇卷四号 一九七七年

野口洋二著『グレゴリウス改革の研究』

『法学研究』第五二卷九号 一九七九年

ブライアン・ティアニー著『宗教、法、そして立憲思想の発展 一一五〇年—一六五〇年』

『法学研究』第五七卷八号 一九八四年

甚野尚志著『ジョン・オブ・ソールズベリの政治社会論』(『人文学報』五八号)

『法制史研究』第三六号 一九八六年

五、その他

『三色旗』第三一〇号 一九七四年

「形と秩序」

『三色旗』第三二〇号 一九七四年

「図書館を利用しよう」(池上忠弘氏、松浦保氏、丸山信氏との座談会)

『三色旗』第三三二二号 一九七五年

「立科課外行事に出席して」(三雲夏生氏、伊藤顕氏、藤崎由美氏、橋本紀子氏、山田史子氏、原田敏彦氏、山田幸一郎氏との座談会)

『三色旗』第三三八八号 一九八〇年

「歴史を見る目」(坂口昂吉氏、斎藤修氏、工藤教和氏との座談会)

『三色旗』第四〇九号 一九八二年

「四月の坂道」

『三色旗』第四〇九号 一九八二年

「解説」(クリストファー・ブルック著、松田隆美訳『中世社会の構造』所収)

法政大学出版局 一九九〇年

- 「キリスト教と西洋文明——政治思想より」 『三色旗』 第五七三号 一九九五年
- 「改めて教養教育を」(絹川正吉氏、倉松功氏、林道義氏、飯野正子氏との座談会)
- 『大学時報』 第四八巻二六四号 一九九九年
- 『三色旗』 第六二七号 二〇〇〇年
- 「教養のススメ」 『三田評論』 第一〇二九号 二〇〇〇年
- 「三田法学と慶應政治学の伝統——そして今後の使命——II政治学科」 『三田評論』 第一〇三一号 二〇〇一年
- 「日本の『今』を探る」(第二五回小泉信三賞全国高校生小論文コンテスト 選評)
- 『三田評論』 第一〇三二号 二〇〇一年
- 「言葉によって立つ——小泉信三賞全国高校生小論文コンテスト」 『大学時報』 第五〇巻二七八号 二〇〇一年
- 「『今』の中を生きる若者」(第二六回小泉信三賞全国高校生小論文コンテスト 選評)
- 『三田評論』 第一〇四二号 二〇〇二年
- 『三色旗』 第六六〇号 二〇〇三年
- 「非政治的なものがはらむ政治的意義」